


2019年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2020/9/29

団体名	NPO法人 Okinawa Hands-On NPO	活動タイトル	きたたん栄口（えくち）デイゴ倶楽部2019	
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景	
<p>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>～無縁社会の闇からチェイジー（助け合い）の志縁社会へ～ 経済的に問題を抱えている子たちの可能性を引き出し、地域で育てる仕組みづくりを行っています。 ウェルビーイング（精神的な生活、健康的な生活）を維持していけるよう異年齢交流で信頼関係を築き、切れ目のない支援を作り出していきます。 さらに運営実施体制の共有が出来るよう、運営ガイドラインと実践マニュアルを策定し、北谷町栄口公民館モデルとして沖縄県内にある公民館ネットワークと連携し波及させていきます。</p>		<p>オンラインプログラム実施の様子</p> 	
<p>●団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>地縁で繋がる異年齢・多世代チームを作り、人生経験のある地域の方々や企業、専門家と連携し、子どものころから人脈を拡げていきます。 有機的に繋がる志縁で、自己肯定感に繋がる人材育成を目指し、親子と地域を結ぶ懸け橋となるよう邁進していきます。 地域の希薄化を地域間交流を通じて、孤立や格差を軽減していく持続可能なプログラムを展開し、生活の不安を乗り越える場所を各地に作っていきます。</p>			
<p>●団体の活動基盤</p>	<p>2002年に導入された学校週5日制に伴い、地域で児童・生徒の活動の場を創出することが急務となりました。さらに核家族の増加、教育機会の格差が広がるなか、地域での異年齢交流体験、生活体験活動、社会体験活動などを推進し、子ども達の生きる力を育む活動をNPOの教育支援活動として提供していきます。</p>			
■ 活動報告			■ 1年間の目標に対する達成状況	
<p>地域に住む多様な職歴を備えた方々を講師に迎え、異年齢・多世代交流を通じて人づくり、モノづくり、生きがいづくり、仕組みづくりを行ってきました。 学習支援では、ピアラーニング方式（異年齢の教え合い）で平均目標の75点～85点を上回り、生徒たち一人ひとりが飛躍的な成果を達成しています。 また、新型コロナウイルスの感染防止のため、日頃使用している公民館を使用できない期間もありましたが、オンライン学習の開催を行い、三密（密閉、密集、密接）を避けた外でのプログラムを開催し、食農プログラムを通じて、「コロナに負けない野菜作り」、人も野菜も有機的につながる地域家庭菜園を現在も行っていきます。生活習慣の格差を減らしていく為には、ウェルビーイング（健康生活による実現）、ウィルビーイング（精神的に安定した生活）心も身体も充実を図り、知徳体を地域で結集して、誰一人取り残さないSDGsの沖縄県の方向性を取り入れながら地域の家族拡大をめざしていきます。</p>			<p>●学習支援プログラムの実施 ①開催 5 0回実施（週に1回開催） ②目標アウトカム ピアラーニング方式（異年齢の教え合い）で「チームで学力向上」、「学習意欲の向上」に繋がりが、平均目標の75点～85点を上回りました。志望校進学率 1 0 0 %を達成しました。 ●文化活動プログラム ①開催 8 0回実施（当初計画 7 5回を 8 0回に変更）②目標アウトカム：平均回数を継続的に週に1～2回実施をし、当初計画より多く開催する事ができました。 ●地域連携ワークショップ（地域の学校シリーズ） ①開催 5 回実施②目標アウトカム「地域連携ワークショップ」を1年間で約 3 0 0名の参加人数を達成しました。 ●活動基盤の強化 開催 2 0回（月に1回～2回開催） 目標アウトカム「定期的情報交換」学校、自治会、地域、専門家と連携し、実行委員会が結成されました。コロナ禍においては、オンラインミーティングやメール、SNS等での情報交換を随時行いました。</p>	
■ 事業を通じて得られたノウハウ			■ 望ましい社会状況を達成するための課題	
<p>1年目は、「他人との絆を大切に作る肝心(ちむくくる)活動の芽生え(共感)』活動を行い、「地域家族拡大」へと繋がりが生まれました。本事業を通して、様々な地域の課題解決にも取り組む機会が増え、「コロナ禍において新しい風を吹き、新しい時代を切り開いてくれている」と地域の方々、学校関係者から評価をいただきました。 沖縄の言葉でイメール（ゆいまーる・助け合い）という言葉があります。弱い立場の人たちに立って、支えあう、助け合いの精神の教訓に、異年齢・多世代交流を通して、ウェルビーイング（健康生活による実現）、ウィルビーイング（精神的に安定した生活）心も身体も充実したプログラムが習慣になってきております。特に食農プログラムにおいては、地域子ども菜園を中心に定期的に野菜を育て、収穫した野菜を地域の協力者と一緒に作る機会ができ、地域で育てる仕組みづくりに繋がっています。 今後は、必要としている人々の元へ届けていけるよう市民参加型プログラムを推進していきます。農で人をつなぐ市民参加型救済プログラムの標準化をめざし、家族で種から野菜や植物を育て、地域の方々や食事をする楽しさを学び、生き物を育てる責任を学ぶ新しいライフスタイルの食育プログラムをめざします。</p>			<p>新型コロナウイルス感染拡大で経済的な格差が広がり、ますます困窮する人々が増加しつつあります。人々が生活を再建できないままの状況が長引き、その生活の立て直しが大きな課題となっています。 デイゴ倶楽部を開催している北谷町栄口自治会では 4 9 世帯の貧困家庭がいると行政から報告がありますが、個人情報の関係で 1 0 世帯しか把握していない状況の下、なんとかして地域に寄り添いたいという思いがあります。また、町内の児童館ではコロナ感染対策に基づき人数制限がかかり、コロナ禍前より地域の居場所が減少しているという声も多く寄せられています。その対策として、セーフティーネットの観点から、北谷町栄口自治会や区域の方々の協力で栄口子ども商店（フードドライブ）を開催する予定です。また、SNSを上手く活用し、連携する浦添地域においても、その実例をモデルとして開催できることを念頭に行動していきます。</p>	
■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）			<p>「有機的に繋がる志縁」で「親子と地域を結ぶ懸け橋」となり、地域教育力を推進していく為の土台づくりの構築を達成しました。</p>	
■ 受益者の具体的な変化（効果測定結果等）			<p>本事業を通して、なかなか表に出なかった生徒達が地域や学校で積極的にリーダーとなり、学校を代表する「平和大使」や、「英語スピーチコンテスト」に選ばれる等、様々な活動に挑戦するようになり、自己肯定感が高まってきました。また、生徒の保護者が地域、専門機関と繋がる機会が増え、家庭内完結型の子育てではなく、地域連携型の命の救済志縁ネットワークが現在広がっています。</p>	